

第2回認知症専門部会報告

- 1 もの忘れ検診の受診状況と次年度の実施について
- 2 認知症ガイドブック（令和4年度）について

もの忘れ検診の
受診状況と
次年度の実施について

1 もの忘れ検診の受診状況

令和3年10月1日～令和4年1月（速報値）受診券発送13,700人、実施機関140か所
（検診対象者：チェックリスト20点以上または希望者、認知症の診断のない方）

月	受診者数	包括の支援数
10	130人	30人
11	67人	16人
12	40人	9人
1	27人	11人
計	264人	66人

【受診についてのお問合せ内容等】

- ・チェックリストが20点以下だったが検診を受けなくてはいけませんか？（多数）
- ・この検診は、義務か？（複数）、毎年受けさせてくれるか？
- ・50代だが受けたい、80代だが受けたい。（対象外からの希望複数）
- ・今69歳だが、来年は受けられるか、受診券はいつ送られてくるか。

【啓発について】

- ・自分でできる認知症の気づきチェックリストが掲載された「認知症ガイドブック」の配布数14,000部と検診以外配布数4,900部で昨年同時期と比べて600部増となっている。

2 検診後、包括での支援内容

- 電話で状態確認をしたが、対応が心配だったので訪問し、はつらつシニアクラブや運動プログラムを案内した。
- 電話は応答がないため訪問し、状況確認（家族と同居や日中の過ごし方）と包括の案内をした。
- 要受診の方が、専門病院で精密検査を実施した結果、異常なしとなったが、家族が心配しておりカフェを案内した。
- 転倒が心配なため、福祉用具や訪問介護サービスを案内したが、併せて脳外科受診も勧め今後、担当者会議を開く予定。
- 既に包括で関わりのある方だったため、介護保険申請が迅速に行えた。
- 都市型軽費老人ホームの入居者へは、施設長の了解のもと支援を実施した。




3 令和4年度もの忘れ検診の実施について

★令和4年度もの忘れ検診は、他の区民健診等と実施期間を合わせ、検診を受けやすくします。
★もの忘れ検診実施機関以外の医師会の医療機関にも事業を周知し、かかりつけ医ともの忘れ検診実施医療機関と連携を進めます。

目的	<ul style="list-style-type: none">・もの忘れの症状が軽度のうちに認知症に早期に気づき、適切な医療や介護予防の取組みにつなげ、住みなれた地域での生活を維持する。・認知症の正しい知識の普及啓発
対象者	70歳・75歳の区民（およそ16,000人）のうち 「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」の点数が20点以上の希望者、または、認知症に心配のある希望者 ※認知症の診断を受けている方を除く
実施機関	区内140か所の医療機関（練馬区医師会協議中、R3.12時点数）
自己負担額	無料
検診期間	令和4年5月6日～令和5年2月28日（予定）
認知機能検査	<ul style="list-style-type: none">・改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）・Mini-Mental-State-Examination（MMSE）
検診後の支援	<ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センターによる相談や訪問等の支援・専門医療機関の紹介、介護予防事業の紹介と優先予約等

4 もの忘れ検診を受診していただくために 認知症専門部会からの意見と対応

	意見・感想	対応
周知について	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会やカフェで、チラシやガイドブックなどを活用しPRを行うといいのではないか。 ・訪問看護の現場で、患者家族の認知機能低下を疑っても受診を勧めるのが難しいが、この事業があるのはとても良い。他の健診と合わせて対象を広げるのも良い。居宅部会でも周知する。 ・対象者には、個別に通知が届くので、地域包括支援センターの存在や検診について、周知できて良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き区民が集まる講演会やカフェなどでPRしていく。 ・令和4年度は、区民健診と実施時期をそろえて検診を受けやすくする。 
実施医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ・クリニックの現状は、コロナ対応で多忙である。 ・自分の病院では、検診の相談が5件あり、実際に検診につながったのは、1件だった。事業を継続することが大切。もの忘れについて、相談できる医療機関が140か所あることが、早期発見につながりやすくなり、BPSDになってからの相談にならないようにできるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能の低下には、身体疾患も原因となることがあるので、かかりつけ医からも必要に応じて検診を勧めていただく。 ・医師会で事業説明を行い検診実施機関以外の医療機関にも再度事業周知を行う。
ほか	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座やN-improなどにより、これから対象者になっていく人を含む区民一般に対し、認知症への理解の普及啓発に取り組む。 	

認知症ガイドブック (令和4年度) について

- ・ 認知症ガイドブックの改訂

1 改訂の概要

- ・新たに区内の認知症の人本人の声やご家族の声を紹介し、普及啓発・本人発信支援を推進する。
- ・支援サービス等の掲載内容の更新

2 認知症専門部会からの意見と対応

該当箇所	意見・感想	対応
20ページ (裏表紙)	記事毎に多種の問い合わせ先があり混乱しやすいのではないかと。困ったときに最初に問い合わせできる窓口を分かりやすく記載されたい。	地域包括支援センター連絡先を強調して掲載
全体	・本人および家族や介護者にとっての困りごとに関する記事が以前より分かりやすい。 ・内容が盛り沢山でボリュームがある。	—

3 新規項目

①とうきょう認知症希望大使からのメッセージ (2ページ)

練馬区在住の長田米作さんのメッセージを紹介

②とうきょう認知症希望大使が選ばれました！ (4ページ)

とうきょう認知症希望大使の解説

練馬区在住の長田米作さんのプロフィール紹介

③ご家族の思い (10ページ)

認知症の方のご家族の思いを紹介

④ICTを活用した見守り (13ページ)

認知症の人の家族支援として、見守りICT機器活用の普及とGPSを利用した位置情報提供と現場急行サービスの助成制度の紹介

4 主な見直し・修正項目

ページ	記事名	内容
4	認知症とは？	旧「認知症は誰でもなる可能性があります」記事スペースの見直し
5	在宅療養生活と人生会議（ACP）	旧「人生会議（ACP）について」の見直し 「わが家で生きる」の紹介を追加
9	認知症かな？と思う人に出会ったら	旧「認知症の人へのガイドライン」記事タイトルの見直し
10	チームオレンジ活動 認知症のご本人・ご家族の思いを支え地域で活動する/家族の思い	旧「チームオレンジに参加しませんか」、「本人ミーティングを知っていますか」を見直し、実際の本人ミーティングの様子やご本人の声、家族の思いを紹介
13	医療・介護の情報をひとつに	旧「医療・介護連携シートをご活用ください」と旧「医療と介護の情報サイト」を統合
14	「認知症かな？」と思ったら	イラストの差替え等